



## つむぎだより No.48

### ＝本格デビュー＝

花粉の季節真っ只中。今では日本人の4割程度が花粉症だと言われていきますね。

以前から花粉症の私は、1月下旬には、しっかり耳鼻科に行き、対策を講じておりましたので、ツライ時もあるとはいえ、それなりに過ごしていました。そして3月に入り少し経った頃、もう一人の代表K氏が、「日曜日、鼻水が止まらなかった…」と話してくれました。折しもその日は、私も鼻水が止まらず、しんどかったです！！そうです、K氏も花粉症だったのです。

昨年も「少し目がかゆい」とか、「くしゃみが出る」と言いつつも、K氏は花粉症であるとは、かたくなに認めていなかったのですが、さすがに今年は本人も認め、花粉症本格デビューを果たしました！！

めでたくないデビューではありますが、花粉症のスタッフと子ども、この季節を乗り切りたいと思います。(川東)

### 1、中小企業の人手不足と「防衛的賃上げ」

日本商工会議所・東京商工会議所は、2月14日「中小企業の人手不足、賃金・最低賃金に関する調査」の集計結果を発表しました。

#### ◆人手が「不足している」は65.6%

「人手不足の状況および対応」の設問では、人手が「不足している」と答えた企業は、前年比1.3ポイント増の65.6%に上り、3社に2社が人手不足という深刻な状況が依然続いています。

業種別にみると、「2024問題」への対応が求められる建設業(78.9%)や運輸業(77.3%)、労働集約型の介護・看護業(76.9%)で「不足している」とする企業の割合が8割近くと高く、最も低い製造業(57.8%)でも約6割が「不足している」と回答しており、あらゆる業種で人手不足の状況にあることがうかがえます。

#### ◆2024年度に「賃上げを実施予定」の企業は6割超

こうした中で、2024年度に「賃上げを実施予定」と回答した企業の割合は、昨年度の58.2%から61.3%へと6割を超えており、賃上げに取り組む企業は着実に増加しています。

ただ、そのうち「業績の改善がみられないが、賃上げを実施予定」が60.3%で、6割の企業が『防衛的賃上げ』に迫られている状況です。

#### ◆「最低賃金を下回ったため、賃金を上げた」企業は38.4%

2023年10月の最低賃金引上げを受け、「最低賃金を下回ったため、賃金を上げた」企業(直接的な影響を受けた企業)は38.4%と、昨年度から0.4ポイント低下したものの、引き続き高い水準となりました。

一方、人手不足や物価上昇が進む中、「最低賃金を上回っていたが、賃金を上げた」企業は29.8%と、昨年度から5.2ポイント増え、こちらは2017年の調査開始以降で最も高い割合でした。

自社の賃金検討の際、ご参考ください。

【日本商工会議所・東京商工会議所「中小企業の人手不足、賃金・最低賃金に関する調査」集計結果】

<https://>

[www.jcci.or.jp/20240214\\_survey\\_release.pdf](https://www.jcci.or.jp/20240214_survey_release.pdf)



## ＝季節のコラム＝

春はいよいよ本番。色々な花が盛りを迎えますが、チョウの形の花をいくつもつける「フジ」もその一つ。

日本の固有種であり、「万葉集」にも数多く詠われ、「枕草子」では『めでたきもの』とされています。牧野富太郎博士によって、命名された学名は「ノダフジ」。これは摂津国野田村（現在は大阪市）の地名に由来します。この「野田の藤」は、室町時代、第2代将軍の足利義詮がわざわざ見に来たとも、豊臣秀吉が花見に来たとも言われ、江戸時代には「吉野の桜」、「高尾の紅葉」と並び称されていました。

秋にはマメ科の植物らしくサヤが熟し、乾燥すると種子を飛び散らせますが、その速さは、秒速10 mにもなると、寺田寅彦が随筆に書いています。（鹿島）



### 社会保険労務士法人つむぎ

〒540-0012

大阪市中央区谷町2丁目1番22号

フェアステージ大手前ビル7階

電話: 06-4397-3358

FAX: 06-4397-3359

Email: info@sr-tsumugi.or.jp

営業時間

平日 9:00～18:00

HP: <https://sr-tsumugi.or.jp/>

## 2、66歳以降も生活のために働く人が増加

### ◆生活設計と年金に関する世論調査

内閣府は3月1日、「生活設計と年金に関する世論調査」の結果概要を公表しました。これは、今後の施策の参考とすべく、老後の生活設計や、公的年金制度・私的年金制度への意識・ニーズについて調査したものです（全国18歳以上の男女対象、有効回収数2,833人）。今回は平成30年に実施されており、5年ぶりの調査となりました。

### ◆66歳以上も「生活のために」働く人の割合が増加

老後の生活設計について、「何歳まで仕事をしたいか（またはしたか）」という設問への回答は、

51歳～60歳が14.8%

61歳～65歳が28.5%

66歳～70歳が21.5% となりました。

ちなみに71歳以上でも働きたい（働いた）という人の割合は合計で21.1%。そのため66歳以降も働きたいという人は、計42.6%に上り、前回調査より5ポイント上昇しています。

その働く理由は「生活の糧を得るため」の割合が75.2%と最多で、老後の生活資金の不足分を働くことでまかなう、という意識の高まりがうかがえます。

また、厚生年金を受け取る年齢になったときの働き方に関する設問では、「年金額が減らないように、就業時間を調整しながら会社などで働く」（44.4%）という回答が最も多くなりました。

今回の調査からは、就労、公的年金、貯蓄を組み合わせる生活設計をするという方が多いことがわかります。

人口減少が加速する中で、企業としても、働く人々のこうした意識をくみ取りながら、安心・安全に働き続けられる制度を考えていく必要があるでしょう。

### 【内閣府「生活設計と年金に関する世論調査」の概要】

<https://survey.gov-online.go.jp/r05/r05-nenkin/gairyaku.pdf>



## 3、今月のおすすめ本

今月は「手紙」（東野圭吾／文春文庫）をご紹介します。

強盗殺人犯を兄に持ったという境遇が、主人公から人生におけるすべてのもの（就職、結婚、子供の生活、夢）を奪っていきます。

犯罪加害者の家族が、社会から受ける『差別』。主人公に同情しながらも無意識に遠ざけ、関わらないようにしてしまう。

読み進めるうちに、「あなたはそんなことをしていないか」と、問われているような気持ちになり、ふと、『アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）』という言葉思い出しました。

自分は差別なんてしていないと信じていても無意識にそうしていることも…、と考えさせられました。

ぜひ、読んでみて下さい。（川端）

